

富山地方標高 1000m付近の Almanac

永井知佳（会員）

今、私は、富山平野を離れて高標高域（標高 1,000m付近）で日々の生活を送っています。学生時代から夢見ていた山の中での生活に、毎日わくわくしています。そこはライチョウの生息する高山帯へと続いていく森林の一角です。周囲はブナが優占する森林で、クマやカモシカとはお隣さん同士です。

動物のように敏感に季節の移ろいを感じることは出来ていないのですが、折を見て目に付いた事柄をお伝えしていきたいと思います。

7月上旬のブナ林

富山市にある松川べりのサクラの花は4月上旬が見頃でした。標高 1000mの春はブナの新芽の芽吹きが始まります。ブナは平野部のサクラの開花から1ヶ月半ほど遅れた5月中旬に芽吹きが始まりました。芽吹きの頃は、朝見る景色と夕方見る景色が違って感じるほどで、展葉の進む速さにびっくりしたのを思い出します。



5月から6月にかけては展葉に開花にといろいろな樹木がめまぐるしく変わっていくので、ずっと樹冠に目を奪われていましたが、ここしばらくはどの樹木も一様に立派な葉を広げ、下から見上げただけでは樹木の季節変化がわかりません。



このため、視線はすっかり林床へと向いています。オオイヌノフグリに似た小さな薄紫色の花は可憐な見た目に似合わずごつい名前がついていて、ヤマクワガタというそうです。小さな黄色の花はコナスビです。どちらも種子の形から名前がついているようで、どんな種子が出来るか楽しみです。



かわいい芽生えも見つけました。4裂の葉が向き合っていて、中心から鋸歯のある本葉が顔を出しています。人に教えてもらったところ、この芽生えはサワグルミらしいです。小さな本葉はまだ1枚で、羽状複葉ではありませんでした。種子はどこから来たのだろうか、上を見上げるとちょうど真上に親の木が立っていました。サワグルミの樹冠には、いつ

のまにかシャンデリアみたいな未熟な翼果がぶらさがっていました。

ウワミズザクラやミズキはしばらく前に花の時期が終わり、青い果実を育てているところです。まだ花が咲いているのはナナカマドやヤマブドウ、サルナシ、マタタビです。どんな昆虫が花によってきているのか気になりますが...



クマの親仔に教えて貰う

ある日、クマの親仔の食事の時間に出くわしました。クマの親仔が地面を軽く触って何かを食べているようです。そのうちに2頭の仔グマはするとカラマツの木に登り見えなくなりました。お母さんグマは少し移動してオオヤマザクラの木に登り枝先を引き寄せて何かもぐもぐしています。

数十分して3頭がいなくなった後、現場にあったのはアリの巣でした。アリの巣はカラマツの落葉がふんわりと積み重なったところであって、その巣の所々にカラマツの落葉を払った後がありました。オオヤマザクラは葉っぱしかないのでは？と思っていたのですが、良く見ると濃い紫色の果実が熟していました。

毎日、前を通っていたはずなのに、クマに教えられるまでは、オオヤマザクラがそこで果実を育て、立派に実らせていることに全く気づいていませんでした。アリの巣もそうです。クマさんに会わなかったら気付きませんでした。目を皿のようにして、いろいろなものを見ていたつもりだったので、少し悔しい気持ちです。

クマのまねをしてオオヤマザクラのさくらんぼを一粒口に含むと、ほろ苦い味がして遅れてかすかな甘みを感じました。



7月中旬のブナ林

季節は梅雨の真っ只中です。標高 1000mでも雨の降る日はまだ肌寒く、長袖が手放せません。雨の降りしきる標高 2400mの寒さはいかほどなのか、冷たい

雨が長引くようだとライチョウの雛の生存率にかかわってくるので、とても心配です。

(つづく)